

二 第一次調査

II区のD | 覆土三層

(1) 「▽□□

(90)×24×5 039

五区遺物包含層三層

(2) 「11」

径(122)×高(41) 061

五区遺物包含層二層

(3) 「11」

径(90)×高(14) 061

(1)は付札で、下端を欠損する。(2)は漆器椀で、内外面ともに黒色
漆が施され、赤色漆による文字がある。(3)は漆器皿で、内外面とも
に黒色漆が施され、赤色漆による花文と文字がある。
なお、木簡の釈読にあたっては、山形県立米沢女子短期大学の吉
田歎氏のご教示をいただいた。

9 関係文献

(財)山形県埋蔵文化財センター『鶴ヶ岡城跡発掘調査報告書』(1)
○○一(年)

(菅原哲文)

木簡画像データベース「木簡字典」の公開

奈良文化財研究所では二〇〇五年一月、木簡画像データベース「木簡字典」を公開した。これは木簡の文字の画像を一文字毎に検索でき、しかもさまざまな条件による絞り込みが可能な画期的なシステムである。画像もモノクロだけでなく、カラ―、赤外線などさまざまなタイプの複数の画像が選択できる。また、木簡の文字を読んだ記録である記帳ノートも公開している。さらに、その画像の文字が書かれた木簡の基礎データを参照でき、どの木簡のどういう文脈で用いられた文字かがわかる。

現在、奈良文化財研究所が調査した木簡だけではなく、九州歴史資料館の協力によって大宰府跡出土木簡も含め、約六〇〇字種、約六三〇〇文字分のデータを収録している。データの拡充(絶対量・時代・遺跡)、熟語(複数文字)検索、釈読支援システムの中での位置付けなど課題も多いが、木簡を読み、資料として活用していく上で不可欠の工具となることが期待される(なお、このデータベースは、二〇〇三—〇七年度(予定)日本学術振興会の科学研究費補助金基盤研究(S)「推論機能を有する木簡など出土文字資料の文字自動認識システムの開発」(研究代表者渡辺見宏)の研究成果の一部である)。

URL: <http://www.nabunken.go.jp/database/>